

第1章 基本理念と方向性

1. 趣旨

日本の観光が大衆化したのは1960年代で、その特徴は団体旅行、名所見物、周遊でした。旅行者は、旅行会社が決めたパッケージツアーで決められたコースを巡るのが一般的なスタイルでした。

しかしバブル崩壊後、人々の消費志向は「モノ」から「心」へと移行し、それまで視覚重視の観光から心を感じる旅「感幸」へとシフトしました。旅行の特徴も個人、夫婦、家族、小グループとなり、名所見物よりも参加体験型観光が増加し、団体旅行を急激に減少させ、いまや、その比率は約3割に過ぎません。



このような社会・観光情勢の中、阿賀野市は、それぞれ個性ある観光資源を有する四町村が平成16年4月1日に合併し、阿賀野市総合計画の中で、「自然と歴史・文化が織りなす観光のまち」を推進することとし、阿賀野市観光振興計画（観光戦略プラン）を策定するものです。

2. 計画推進期間並びに目標年度

本戦略プランは、平成20年度（2008年度）を策定初年度とし、平成25年度（2013年度）までの5年間を戦略プラン推進期間とします。



3. 基本理念と方向性

阿賀野市の代表的な観光資源は、緑の自然とそこで育まれた安全・安心な農畜産物の食、体の治癒力を高める効果があるラジウム含有量日本有数の五頭温泉郷、そしてラムサール条約登録湿地の瓢湖です。



この地域特性を最大限に活かし、戦略的に観光振興を進めて行くためには、「住んでよし、訪れてよし」の環境保全を基本理念とし、“健康と食”“おもてなしの心”をキーワードに交流人口の拡大と、ここに住む私たちがふるさとに誇りと愛着を持つまちづくりを目指します。

また、新潟県が進める環日本海交流として韓国や中国・ロシアからの誘客活動を積極的に進め、国際観光立市も併せて目指します。

第2章 阿賀野市における観光資源の現状と課題

1. 観光の現状

阿賀野市の観光資源は、荒海山を源とする大河阿賀野川、県立五頭連峰自然公園を中心とした山々と森林、豊かな自然に抱かれた地で生産される農畜産物です。消費者と協働した環境保全農業によって生産される食は、どれもが安全・安心・新鮮で美味しく、まさに食の宝庫です。

また、日本有数のラジウム含有量を誇る村杉温泉に、県内最古の出湯温泉や今板温泉の三温泉からなる五頭温泉郷。

ラムサール条約登録湿地の白鳥を主とした20種類以上もの水鳥が飛来する瓢湖が代表的な観光資源です。

さらに市民のふれあいの場ともなっている六斎市、県政

